

○大藪榮興・松尾洋一

(佐賀農業セ)

【目的】唐津市鎮西町馬渡島に、‘ゲンコウ’と呼ばれ調味用食酢として利用されてきた香酸カンキツが分布しているので、その分布状況と形質について調査した。

【材料および方法】2005年10月7日に馬渡島で聴き取りを行い、樹の分布場所、来歴、栽培状況などを調査した。その後の連絡で新たに二カ所に植栽が確認され、2006年2月と3月に果実の品質を調査した。また、同年5月18日花を採取し形状を調査した。

【結果および考察】

1. 分布の状況：馬渡島は本村地区と新村地区に分かれており、‘ゲンコウ’は新村地区にだけ分布していた。先の調査で人家のない道沿いの「番所の辻」と呼ばれる場所以外に、その後の聴き取り調査では江頭邸内および大谷邸内に‘ゲンコウ’の古木があることを確認した。この3樹について接ぎ木痕は認められず、主幹は直立する樹形を示し実生樹であると考えられた。

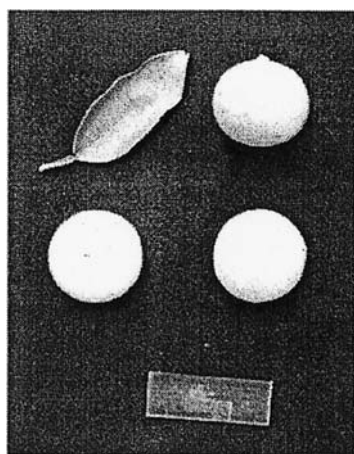
2. ‘ゲンコウ’の形質特性：

樹勢：実生由来のためかどの樹も旺盛であった。
樹形：現存している樹の観察では、高い位置から分岐した枝が回りの樹木と競合する形で上へ伸び立ち性で直立の樹形となっていた。

枝、葉：春枝の太さ、長さは中程度で、発生密度も中程度であった。全ての個体でトゲの発生が認められ、長さは8~13mm程度であったが発生数、長さはユズほどではなかった。葉の大きさは日照

条件でやや差があり、日当たりの悪いところでは広くかった。翼葉は発達せず痕跡程度であった。
花：今回の調査と、農試に保存している鉢植えの着花状態を観察したが、鉢植えでは伴葉花で単性の有葉花とネーブルオレンジに見られるような総状花序のものが約1：1の割合で観察された。希に直花が着花した。馬渡島の樹では、江頭邸の樹では着花が少なく、ほとんどが単性の有葉花であった。また番所の辻の樹では着花が少なかった。4m程度の高所に着花していたため、詳細な観察はできなかったが、ほとんどが単性の有葉花であった。大谷邸の樹ではほとんどの花が直花で着花していた。花弁数は5枚で色は白色、花糸数は約23本で分離していた。葯の長さは約4.3mmで、橙黄色で健全な形をしており、花粉量は多く酢酸カーミン染色による花粉稔性調査では花粉稔性率60%であった。

果実：果実重は60~75g程度、扁球形で果形指数は115~125、果梗部に低いネックが見られた。フラベドは黄緑~黄色、アルベドは白色。果皮の厚さは約3.9mm。子室数は11~12個。含核数は16~20個と多かった。種子は多胚性で白色である。11月から着色が始まったが、翌年の2月で8~9分着色で完全着色まで至らなかったものも見受けられた。果汁中のクエン酸濃度は、2月で4.25~4.96%、Brixは11.2~12.5であった。果皮の香りはブタンに似た香りがした。



第1表 ‘ゲンコウ’古木の果実特性

由来	1果重	横径	果形指数	果汁歩合	Brix	クエン酸
	g	mm		%		mg/100ml
大谷	74.8	56.7	121	36.1	11.2	4.25
江頭	60.9	53.2	125	35.5	11.8	4.76
番所の辻	64.2	53.4	115	32.0	12.5	4.96

調査果数：各3果

2006年2月13日分析(2月10日収穫)